



検索

セッション情報	一般演題(ポスター)
タイトル	P170 H. pylori感染に対する鶏卵免疫グロブリンの抗炎症効果及び感染予防効果
演者	野村幸子
共同演者	鈴木秀和, 正岡建洋, 倉林久美子 (慶應義塾大学医学部総合医科学研究センター), 峯岸ゆり子 (慶應義塾大学医学部総合医科学研究センター), 大原正志 (東京歯科大学内科学), 野本亀久雄 (慶應義塾大学医学部総合医科学研究センター), 北島政樹 (慶應義塾大学医学部外科), 石井裕正 (慶應義塾大学医学部消化器内科)
抄録	【目的】胃粘膜疾患に対するH. pylori除菌の有用性が証明されるなか耐性菌の増加や感染予防が重要な課題となっている。本研究ではH. pyloriウレアーゼに対する免疫グロブリン (immunoglobulin Y: IgY) を含む鶏卵抗体食品をスナネズミに投与しH. pylori動態や胃の炎症に対する効果を実験し日野orf療法への応用の可能性を検討した。【方法】スナネズミ (5週半) にL410菌液を接種し感染13週後よりIgY含有飼料 (IgY群: ゲンコーポレーション・免疫研究所より供与) ファモチジン含有飼料 (F群) IgY及びファモチジン含有飼料 (F+IgY群) 及びコントロール飼料 (C群) の摂取を開始した。特殊飼料開始10週後に胃内H. 四' の6菌量および炎症マーカーとしてmyeloperoXidase (MPO) 活性を測定した。別群で4週齢のスナネズミをF+IgY群とC群に分けて飼育し5週齢でHpylori菌液を接' 零し8週後に上記検討を行った。【成績】感染後飼料を開始したスナネズミでは各州間で菌量に差を認めなかったが感染C群に比較しF+IgY群でMPO活性の有意な低下を認めた。また飼料開始後感染群では感染8週後のF+IgY群で菌の定着率は著明に低下しMPO活性も有意に低下した。【結論】IgY含有鶏卵はH受容体拮抗薬との併用でH. pylori感染による胃の炎症を抑制すると考えられた。またH受容体拮抗薬とIgY含有鶏卵の摂取は乱四Z副感染を予防することが示唆された。
索引用語	